

インターバンクの声（2015年11月16日）

金曜日のニューヨーク市場は、米国の10月小売売上高が市場予想を大きく下回る0.1%に留まり、生産者物価指数も弱い内容だったが、ミシガン大学消費者信頼感指数が2ヵ月連続して大幅に上昇したことで12月の利上げ観測が再び後退するのは避けられた。小売売上高の発表の後、市場は一旦ドル売りに大きく反応していたので、ミシガン大学の数字が弱ければもう一度しっかり売り込まれていた可能性もある。ロンドン市場の午前中、ニューヨーク勢が参入してくる前のユーロは、一時1.08ドルに戻すほど堅調だったが、午後になって朝方に発表されたユーロ圏の7-9月期GDPの弱い内容が意識されてしまったのか、12月に欧州中央銀行（ECB）が追加金融緩和に動くとの見通しが強まったようで下落に転じてしまった。欧米の株価は全般的に低調だったものの、ドルがそれに追従するようなことはなく一週間の取引を終えているが、この時点では、フランス国内でとんでもない事件が起こるとは誰も想像できなかった。今週の市場は、2011年9月の米同時多発テロ後の市場反応などを参考にする場面も多くなりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。